

一般社団法人 和乃絆

令和元年度

# 事業報告書

就労移行支援事業所マイパレット  
自立支援教室ひだまりカフェ  
就労定着サポート室あしたば

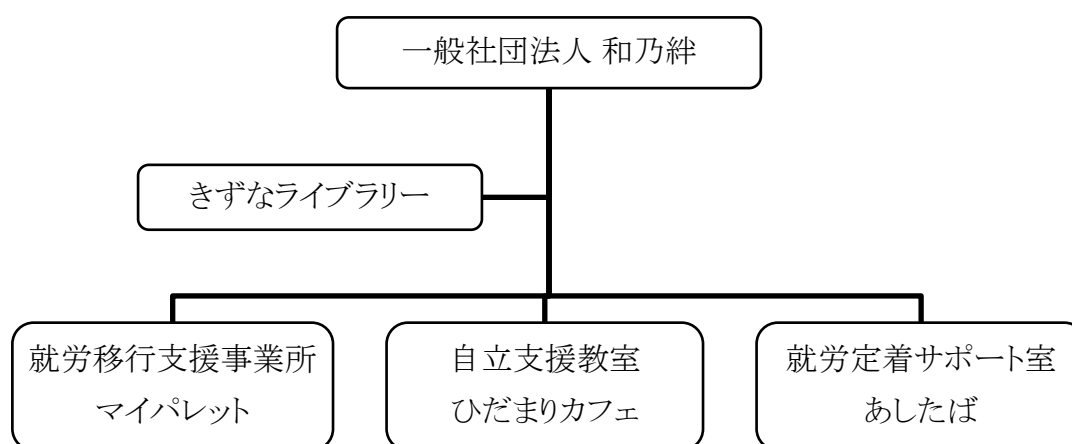
## 内 容

1 法人の指針・概要.....	2
2 事業所名及び所在地.....	3
3 従業者の人数・人員配置.....	3
4 契約利用者数.....	3
1)就労移行支援事業所マイパレット（令和2年3月31日時点）.....	3
2)自立支援教室ひだまりカフェ（令和2年3月31日時点）.....	4
3)就労定着サポート室あしたば（令和2年3月31日時点）.....	4
5 事業報告.....	5
1)就労移行支援事業所マイパレット.....	5
① 事業所内作業.....	5
② PC技能訓練.....	5
③ 施設外就労.....	6
④ 企業等実習・就労体験.....	6
⑤ 職業訓練.....	6
⑥ 事業所内活動.....	6
2)自立支援教室ひだまりカフェ.....	7
① アウトリーチ(訪問活動).....	7
② 生活訓練.....	7
③ 事業所内作業.....	7
3)就労定着サポート室あしたば.....	8
① 支援対象について.....	8
② 職場定着に向けて.....	8
③ ジョブコーチや他機関との連携.....	8
4)きずなライブラリー.....	8
① まちライブラリー.....	8
② おもちゃ図書館.....	8
③ 地域に開けた事業所作りについて.....	9

## 1 法人の指針・概要

### 運営理念 “自己理解、自己研磨、自己決定を支えていく”

当法人の理念「自己理解、自己研磨、自己決定を支えていく」の精神に則り、より具体的な行動、考え方の基準として制定したものです。役員、従業員一人ひとりが、この行動規範に掲げた趣旨を尊重し、一般社団法人 和乃絆の一員として、また社会人として、法令の遵守はもちろんのこと、良識ある行動をとり、社会的責任を果たしていくよう一層努力してまいります。



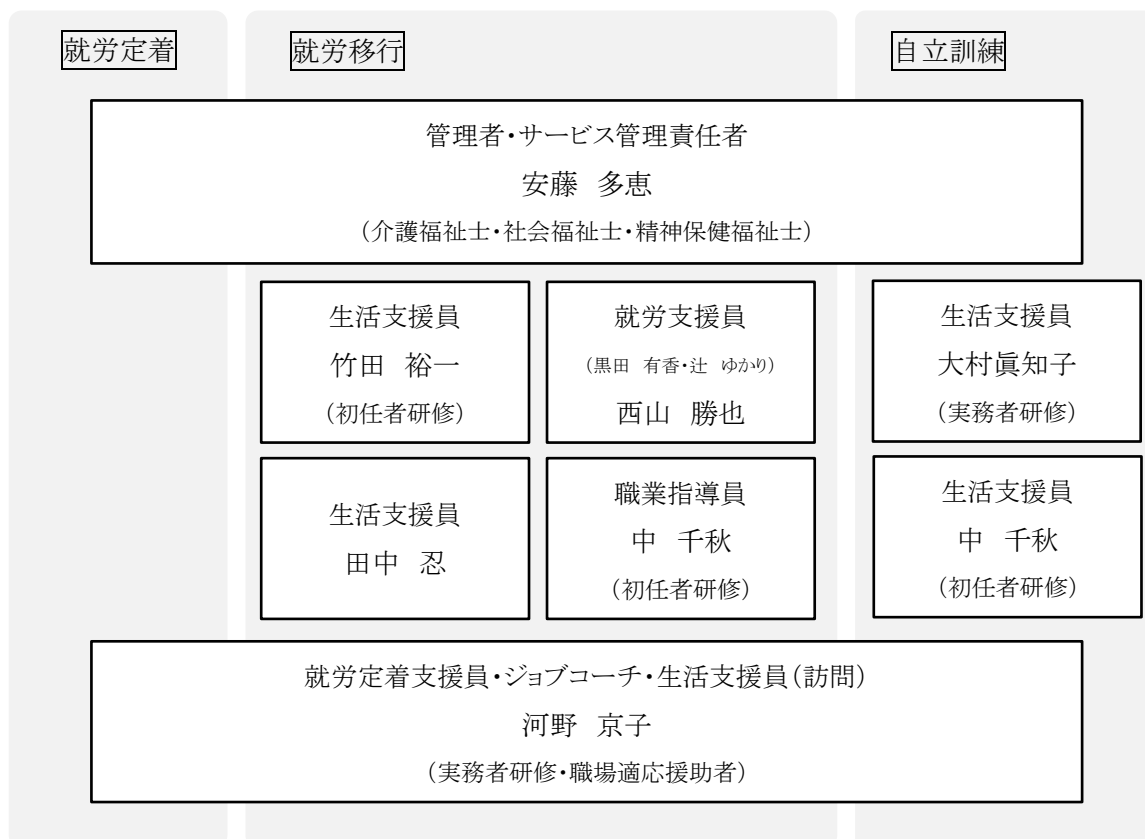
行動規範	<p>I. 社会とのコミュニケーションの促進を図ります</p> <p>II. 個の力を最大限に発揮し、かつ尊重し合います</p> <p>III. 高い透明性と公正な姿勢に基づき行動します</p> <p>IV. 必要とされる事業を実施し、社会への責任を果たします</p>
------	--

事業別理念	就労移行	<p>就労移行支援事業所マイパレット</p> <p>社会人に必要な資質を獲得できるよう支援します。できないこと、苦手なことに自ら対策を講じることができるような人材育成を目指します。</p>
	自立訓練	<p>自立支援教室ひだまりカフェ</p> <p>自分以外の存在全てを広く「社会」と捉え、社会生活の第一歩を踏み出すために、必要な訓練を講じ、社会人に必要な資質を獲得できるよう支援します。</p>
	就労定着	<p>就労定着サポート室あしたば</p> <p>あしたばの葉は、「摘んでも明日には芽が出る」といわれるほど成長の早い植物、摘まれてもまた生えてくる、そんな明日への活力を支えるため支援します。</p>

## 2 事業所名及び所在地

就労移行支援事業所マイパレット	就労移行支援	☎641-0013 和歌山市内原726-13 電話:412-8010 FAX:412-8011
自立支援教室ひだまりカフェ	自立訓練(生活訓練)	
就労定着サポート室あしたば	就労定着支援	
きずなライブラリー	(地域交流)	

## 3 従業者の人数・人員配置



常勤職員	6名	計 7名
非常勤職員	1名	

## 4 契約利用者数

### 1) 就労移行支援事業所マイパレット (令和2年3月31日時点)

のべ利用者数	利用定員	現在利用者数
31名	13名	5名

一般就労者数		
のべ一般就労移行者	就労継続中	離職
23名	19名	4名
		福祉的就労 3名
		一般就労転職 1名
		ほか

		平成29年度	平成30年度	令和元年度
就労移行支援事業所 マイパレット	新規利用者数	6名	5名	6名
	一般就労(就職)	3名	7名	5名
	ジョブコーチ	計1(0)名 ※( )内は法人外ケース	計12(5)名 ※( )内は法人外ケース	計22(13)名 ※( )内は法人外ケース
	福祉的就労	0名	0名	0名
	途中退所	0名	0名	0名

2) 自立支援教室ひだまりカフェ (令和2年3月31日時点)

のべ利用者数	利用定員	現在利用者数
2名	7名	1名

自立支援教室 ひだまりカフェ	新規利用者数			2名
	見学見込者数			2名
	福祉的就労			1名
	途中退所			0名

3) 就労定着サポート室あしたば (令和2年3月31日時点)

のべ利用者数	利用定員 (現時点での職員配置より算出)	現在利用者数
3名	10名	3名

あしたば 就労定着	新規利用者数			3名
	就労継続中			3名
	途中離職			0名

## 5 事業報告

### 1) 就労移行支援事業所マイパレット

#### ① 事業所内作業

今年度、株式会社ヤエパックからの委託業務はありませんでした。平成31年2月より試用を開始した株式会社デファクト・スタンダード(ブランディア)からの中古ブランド服の検品および撮影、データ入力業務は、現時点では継続して取り組んでおりますが、不備が多く、システム使用料などを計算すると収支は赤字です。株式会社オージス総研から委託されているリサイクルパソコン業務(はじまるくん)は、前年度と同程度量で目立った変化はありません。小久保工業所からの内職軽作業の委託分については、5月～8月長期間にわたって在庫を抱えている時期があったものの、その後は解消し、全体的にみれば大きな変化はありません。チラシや名刺などDTPの委託業務が、前年度も今年度も単発で繁雑に発注ありましたが、職員が対応に入る場面が目立ちました。

**協力先:** 小久保工業所、NPO法人わたぼうしくらぶ、社会福祉法人きたば会、株式会社デファクト・スタンダード(ブランディア)、海南・海草圏域自立支援協議会株式会社オージス総研(はじまるくん)相談支援 hana、宮本病院

#### ② PC技能訓練

前年度同様、商業高校などで採用されている「日本情報処理検定」の検定試験に取り組み、主にWordとExcel操作の訓練を週2回、主に月・金の午後に実施しました。日本情報処理検定試験は、年2回(7/8、12/9)にそれぞれ実施しました。また、今年度のアビリンピック(障害者技能競技大会)には、対象者は変化していますが、3年連続で「ワード・プロフェッサ部門」で、全国大会へ選手を輩出できました。まだシステム構築に課題があるものの、名刺管理や職員のタイムカードなどの業務を職業訓練の中で一部取り入れることを9月より開始しています。

日本情報処理検定		利用者	ほか	計
	7/8	10名	5名	15名
	12/8	7名	4名	11名

※1名が2つ受験した場合は2名と計算しています

### ③ 施設外就労

指導員が引率し、実際に企業に出向いて就労を行っています。平日の午前中は、紀三井寺公園の清掃業務を請負、毎金曜日午後に観賞魚の養殖用水槽の洗浄作業が請け負いました。株式会社KUSUNOKIからの委託業務については、これまでは週2日あるいは終日参加させていただいておりましたが、支援体制や訓練スケジュールの組み立てが困難となり、平成31年4月より就労継続支援B型のあすなろ共同作業所に協力依頼し、共同で委託業務を請け負う形となりました。水曜日があすなろ共同作業所、金曜日は当事業所の担当で振り分けていただいています。

**協力先**: 紀の国はまゆう、株式会社KUSUNOKI

### ④ 企業等実習・就労体験

就労体験の実施件数は、前年度と比較すると大きく数を減らしました。実際に雇用を検討している企業での就労体験に集中していたように思います。前々年度と比較しても就労体験の機会を設ける機会は減っています。要因としては、出勤が不安定なケースが多く、就労体験の日程調整が困難であること、職員の入れ替わりなどあり支援体制が不安定であったことが挙げられます。前者の要因については、職業センターの準備支援に一部参加させていただくなど行い、事業所の外へ出向く機会を確保する手立てを打つことができました。後者の要因については、解消されるまでに時間を要すると危惧されますが、職員研修を重ねるほかないと考えています。

#### **企業等実習および就労体験受入事業所**

ヨシムラファーム、特別養護老人ホーム天美苑、グループホームこのみ、  
デイサービスロコ、第二親和園、ウェルネス・コート、(株)鴻池運輸、ハヤシ海運  
小倉カントリー倶楽部

### ⑤ 職業訓練

初任者職員研修の実施は今年度行っておりません。また、検討していた簿記などへの取り組みも実施に至りませんでした。フォークリフトなどの資格取得に向けて、外部機関を活用したより実務的な訓練の実施も計画したものの、保護者の賛同が得られずに未実施でした。作業訓練の体系構築に励んで参りましたが、メンタルヘルスなど体調管理も含めて職業訓練の部分をどう体系化していくかは次年度の課題だと感じています。

### ⑥ 事業所内活動

自立訓練(生活訓練)の事業を開始したことに伴い、生活スキル訓練のカリキュラムが大きく減少しました。活動的に取り組んできた「ペン習字」の時間は職業訓練として捉え直しています。月に1回の調理実習は、継続して定期的に取り組みましたが、農業体験や家庭生活などの取

り組みは継続できていません。整理されてできた時間は、おおむね「SST」に充てています。これまでは日々の訓練の中で見受けられた課題を取り上げて取り組んでいましたが、今年度は、障害特性に特化したプログラムや認知行動療法の考え方を取り入れたワークを意識して実施しました。今後はこれらのプログラムをより整理するとともに、実施した後の成果や課題をどう取り入れていく仕組みを構築するかが課題になると考えています。

## 2) 自立支援教室ひだまりカフェ

### ① アウトリーチ(訪問活動)

平成31年3月より事業開始していますが、以前から不登校やひきこもりの方で定期的に相談に来所され、まだ他機関につなぐことができていないケースがありました。地域への訪問活動を当初は計画しておりましたが、他圏域や本人・家族からの要望に応える形で行っている訪問活動に終始してしまい、こちらからのアプローチはできておりません。継続して定期的な相談を受けているケースは、いずれも当事業所の利用につながる方ばかりではありませんが、他機関につなぐあるいは本人からの要望がなくなるまでは不定期な形で訪問活動を継続していく予定です。インフォーマルな社会資源とのつながりを開拓することも急務の課題です。

### ② 生活訓練

午前中は自身の昼食を調理する時間とし、調理以外の時間は茶話会など自分の思いを吐露できる空間作りを行いました。起床して、身支度を行うといった基本的な生活習慣に課題のあるケースの相談を想定して作成したプログラムであり、成果を見るには実践が足りないが、見学や体験に来られた本人や関係者からは「生活訓練」のイメージと一致するプログラムであり、ニーズと一致していると思われます。

午後は本人のようすに応じて、就労移行支援事業所マイパレットのプログラムに参加することを予定していますが、部分的にしか参加することができずに本人も不全感を感じてしまう場面がある、また作業や訓練の要求水準を下げることで就労移行支援事業所マイパレットの利用者さんの士気が下がることが懸念されます。今後は、自立訓練に特化したプログラムの構築が急務だと捉えております。

### ③ 事業所内作業

工賃支給は出来高と予定しており、参加できる方は就労移行支援事業所マイパレットで請け負っている紀の国はまゆうからの清掃業務への参加も予定していますが、現状では実施に至っておりません。ほかにDTP作業なども予定していますが、その時の利用者さんの意向や特性に応じて、他事業で請負している業務を一部切り出して取り組んでいくことになりそうです。ゆくゆくは、きずなライブラリーの活動を作業訓練につなげていく方針です。



### 3) 就労定着サポート室あしたば

#### ① 支援対象について

現状で就労定着支援の利用が可能な利用者さんは、現在利用されている3名以外に9名が利用可能な対象者ではありますが、支援の必要性や本人の収入から考えると発生されるであろう自己負担金などを考えると、全ての対象者に当事業の利用を勧めるものではないと考えています。現在、他法人からの相談はありませんが、直接企業や本人から相談を受けるケースはあり、ニーズは確かにあると考えています。

#### ② 職場定着に向けて

本人来所か企業訪問かは、本人や企業側の意向を受けて実施しました。仕事の効率や作業定着に係る支援はほとんどなく、職場の人間関係など職場定着に向けた支援や不安定さが出ている生活面へのアプローチが大半でした。聞き取ったニーズとしては、本人も企業も職場での支援というよりは、プライベートな部分の拡充や安定に向けた支援を期待しているようでした。どこからどこまでが、就労定着支援としてサポートすべき部分かの線引きが難しい部分があり、整理していくとともに対応することが適当でないと感じられる部分はどうかを検討していく必要性を感じています。

#### ③ ジョブコーチや他機関との連携

職業センターのジョブコーチだけでなく、和歌山県福祉事業団との連携ケースなど他法人のジョブコーチと連携するケースも増えました。助成金のことだけを考えれば、職業センターと自法人のみで連携するべきかもしれませんが、他法人と連携することで多角的にケースを捉えることやより多くのケースに携わる機会ができ、職員の資質向上に大きな力になっていると感じています。定着支援の利用開始と同時にジョブコーチを配置できなくなるため、ジョブコーチの配置が続くケースについては、ジョブコーチ支援を優先していく方針です。

### 4) きずなライブラリー

#### ① まちライブラリー

前年度も取り組んでいたまちライブラリーですが、9月より貸出可能に設定しており、11月に開催された人権フェスタなどで貸出のための会員カードを配布するなど行いました。今後は、ライブラリーの運営を自立支援教室ひだまりカフェの活動と紐付けていきたいと考えています。

#### ② おもちゃ図書館

令和元年9月に一般財団法人日本おもちゃ図書館財団からおもちゃセットを寄贈いただき、

おもちゃを無料で貸出するおもちゃ図書館の取り組みを同月より開始しました。不登校についての勉強会など研修会開催時に子どもを連れて参加される方がおり、喜んで遊んでくれました。現状では、利用される方はごく一部ではありますが、まちライブラリーと同様、自立支援教室ひだまりカフェの活動として拡充していきたいと考えています。

③ 地域に開けた事業所作りについて

前年度に引き続き、イベントの主催や事務局を担い、事業所のPR活動につながる取り組みを行いました。また、地域の方に理解を広めていくことは、障害受容の一助になると考えて取り組んでいる啓発活動やPRですが、今年度は当事者や保護者の方、関係者にも意識して活動を展開しています。前年度開催した「不登校についての勉強会」は「不登校ひきこもり相談会」と名称を改めました。今後も定期的を開催し、SNS等でもプライベートグループの構築などを進めています。また、11月より大阪府堺市で展開している当事者グループの方から和歌山で当事者グループを立ち上げたいとの相談を受け、きずなライブラリーのスペースを月1回程度提供することになりました。事業所から発信するばかりでなく、当事者グループの活動を支援することで、より啓発活動に拡がりが生まれればと考えています。

以上